

# 世界卓描 せかいてんびょう

第62回 モンテネグロ

## 城壁に囲まれた街 コトル

モンテネグロの西部に位置し、複雑に入り組んだ湾の最も奥まった場所にコトルがある。コトルは1979年世界文化遺産に登録されており、街をぐるりと取り囲む城壁は当時のまま今も残っている。街の背後にそびえる険しい岩山に続く城壁も、いにしえへの思いをかきたてる。

街へは3つある門のいずれかから入ることができる。大方の観光客は中央の門から入っているようだ。西門・海の門ともいうその門は海に面していて、かつて海運貿易の拠点として栄えていた時代には、海からの出入りに利用されていたそうだ。私もそこから入った。

門をくぐると広場があり、正面にコトルのシンボル時計塔があった。1602年ナポレオンの統治下にあった時代に建てられたもので、その時計は今も正確な時を刻んでいる。細い路地を通り



抜けた先には聖トリプン大聖堂がある。1166年に建てられた2つの鐘楼を持つコトルで最も古い教会だ。その日ランチを摂ったレストランはナポレオンが劇場として造らせた建物。ホテルもあるらしく受付カウンターをはじめ、そこここに重厚さを感じたのは私だけではなさそうだった。城壁の内部は旧市街で、ここには街の歴史が凝縮されていた。

実は私、コトルを訪れたのは2度目である。1度目はクロアチア経由、今回はアルバニアから北上してきた。最初に来たのは七年前、暑い日だった。店頭にずらりと並んだ美味しそうなジェラートの誘惑に負けて予定の場所に行けないままコトルを後にした。そのことがずっと頭から放れなかった。運よく2度目のコトル行きが実現し、今度こそはと山の中腹にある聖母教会を目指して城壁に沿った山路を登り始めた。

登るにつれて眼下の街が見えてきた。オレンジの色鮮やかな街並み、街の形は見事な三角形を形成していた。美しい。聖母教会まで行けばこのような光景が見えるはずと思って頑張っていたけれど、ここで充分ではないか、そう思って一緒に登って来た仲間と共にそこから街と向こうに見える海の景色をゆっくり楽しむことにした。1度目のコトルから早や3年が来ようとしている。もう後悔はない。(藤原紀子)

野洲市国際協会 〒520-2395 滋賀県野洲市小篠原2100-1野洲市役所 TEL:077-586-3106 FAX:077-586-3139  
URL:http://www.yifashiga.org E-mail:yifa@gaia.eonet.ne.jp  
イーファメイト 発行日:令和元年9月15日 編集:広報部会

# Welcome to Yasu!! 姉妹都市交流使節団来訪

7月13日から24日まで、アメリカ合衆国ミシガン州クリントン・タウンシップから5名の交流使節団が野洲市を訪れました。姉妹都市交流が始まって27年。今年は14回目の来日です。各団員はホストファミリー宅に滞在しながら、野洲市内や滋賀県内で市民との交流や日本文化の体験をしました。

大繁盛しました。ホストファミリーも協力してハンバーガーを作り、団員がお客さんに手渡しし、良い思い出になったようです。300食のハンバーガーも早々に売り切れ、みんなで花火を楽しみました。



野洲市内では小中学校、銅鐸博物館、消防署や図書館、兵主大社などの各所を訪れました。北野小学校では、音楽の授業で歌に合わせて一緒に手拍子をしたり、外国語の授業でフォニックスソングを歌ったりしました。3年生との給食では、最初は恥ずかしがっていた子どもたちも“Do you like ~?”と英語で話しかけていました。昼休みには、けん玉やコマ回しなどの日本の遊びを子どもたちに教えてもらいながら挑戦しました。4年生の書写の授業にも参加し「岩」を書きました。名前も見本を見ながらカタカナで書き、とても上手な作品ができました。野洲中学校では部活動の見学をし、剣道部では竹刀を持って体験しました。部員相手に面を打つ時は、痛いのではないかと心配してとても優しく打つメンバーもいました。その日は永原でお箸作り体験もしました。ヒノキをヤスリで削り、名前をカタカナで入れ、世界にひとつの箸が出来上がりました。

さよならパーティーでは、団員がアメリカのカントリーミュージックに合わせたダンスを披露し、参加者も一緒に踊りました。南京玉すだれの実演と体験もあり、滞在の最後に楽しいひとときを過ごしました。

たくさんのお会いと感動があった12日間。使節団のメンバーにとっても、迎える野洲市民にとっても、かけがえのない時となったことでしょう。

**クリフォード**  
小学生が日本の遊びを教えてくれたのが楽しかった。

**ヴェラニカ**  
ホストファミリーとたくさん話し家族のことをよく知ることができた。

**ソフィア**  
小学校で勉強の仕方や学校生活を体験しておもしろかった。

**ジーノ**  
日本の歴史やお店、おいしい日本食は素晴らしかった。

**カマリア**  
夏まつりで日本語で話してみた。歌ったり踊ったりして楽しかった。

## フィルの British English

今回は、イギリス英語とアメリカ英語における文法的な違いについて考えたいと思います。

集合名詞は人や物の集まりを全体としてとらえる名詞ですが、イギリス人は複数の名詞として考え、アメリカ人は単数の名詞として考えています。だから、接続する動詞の形が違います。例えば、「イングランド代表は最高！」と言う時、

イギリス英語: The England team are the best!  
アメリカ英語: The England team is the best!  
となります。イギリス出身の私はこのアメリカ英語の使い方を読むと気になります。

特に口語英語では他の文法的な違いもあります。多分その中で一番大きな違いは現在完了形(継続)の使い方です。イギリス英語では“just”や“already”や“yet”という単語を使ったら、文

法通りに現在完了形と一緒に使う決まりがあります。例えば、  
I have just woken up. (私はたった今起きたところです)  
He has already eaten the sandwich. (彼はそのサンドイッチをもう食べました)  
She hasn't left yet. (彼女はまだ出ていません)  
しかし、アメリカ英語では普通の過去形で使ってもいいです。  
I just woke up.  
He already ate the sandwich.  
She didn't leave yet.  
話されている英語でこんな違いはたくさんあります。グローバル化の影響で国による文法の違いを気にしなくてもよくなりつつありますが、自然な英語を話したかったら、イギリス英語とアメリカ英語を混ぜない方がよいでしょう。

**ハロウィンパーティー**

日時: 10月20日(日)  
開場12:00、開演12:30~15:00

場所: コミセンきたの

参加費: [Potluck形式]料理持参(※料理持参なしの場合)  
YIFA会員 500円(※1,500円)  
非会員 1,000円(※2,000円)  
小学生 700円  
小学生未満 300円  
1歳未満 無料  
家族参加は大人2人につき子ども1人無料

テーマ: ハロウィン オリンピック in やす  
仮装での参加をお待ちしています。簡単な仮装グッズの貸出あり。

定員: 150名

**ワールドウォッチング 国際理解講演会**

**不思議の国 ポリビア**

日時: 12月1日(日)  
14:00~15:30

場所: コミセンきたの

講師: ミゲル・リマさん

参加費: YIFA会員 無料  
非会員 200円

定員: 40名

**中国語入門講座**

~ 6回シリーズ ~

日時: 1月25日  
2月1日、8日、15日、  
22日、29日  
毎週土曜日  
10:00~11:30

場所: コミセンやす

講師: 藤田 朋子さん(中国出身)

受講料: YIFA会員 4,000円  
非会員 6,000円

定員: 15名  
(最小開講人数8名)

# 今、世界を騒がせているイギリスってどんな国?



「イギリスってどんな国だと思いますか」。こんな質問で始まった今回のワールドウォッチング。YIFA国際交流員のフィリップ(通称フィル)に5月26日、イギリスについて様々なことを教えてもらいました。2002年、サッカーW杯の応援のために初来日し、「綺麗な国」「優しい人たち」という印象を持ったフィルは大学で日本文化を専攻。2009年にはALTとして再来日し日本人女性と結婚。一旦帰国し、ロンドン大学で日本史を専攻しましたが、子どもの誕生を機に日本で暮らすことを決意したそうです。

王室、ビッグベン、蒸気機関車など、イギリスと聞くとどのようなイメージを持つでしょうか。British Councilのアンケートによると1位が紅茶、2位がロンドン、3位に王室、他にハリーポッター、イングリッシュガーデンなどもあります。では、日本と比べてどうでしょうか。面積は、人口は、移民の数は、など次々と質問が飛び、私たちのイメージが覆されていきました。中でも印象に残ったのはイギリスで最も高い山「ベンネビズ」です。伊吹山よりも低い1343m。イギリスはローリングヒルズと言われ、丘が多い国で、山がほとんどありません。また、1年のうちで雨の日が多いのは有名ですが、Drizzleと言われる霧雨が多く、傘をささないそうです。

人口は現在、日本の約半分。かつては全世界に植民地を持ち「太陽が沈まない国」と言われていました。それらの人々を含めると4億人近くになります。その植民地も今はほぼ返還され、残っているのはフォークランドとジブラルタルのみです。現在のイギリス(The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)は、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドで構成され、その内のウェールズ以外の旗が組み合わされて国旗になっています(ウェールズは早くにイングランドに統合されたため)。ただ、今でも各地域では独立

機運があるとのこと。サッカー応援団のTシャツに「A.B.E」とプリントされているものをよく見かけますが、それはAnyone But Englandという意味。イングランドが特別視されるのは、ローマ帝国時代にイングランドのみが含まれていたからで、歴史は1世紀にまで遡ります。

最後は「イギリス人と日本人の共通点、相違点は」という質問でした。聴衆から共通点はたくさん挙がった(王室がある、婉曲に話す、紅茶が好き、騎士道と武士道など)のですが、相違点があまり見つかりませんでした。フィルからは、共通点として「左側走行、並ぶのが好き、自己謙遜、外国語が苦手、魚をよく食べる」など。相違点としては「個人主義と集団主義、家の面積、イギリスの救急車は夜にサイレンを鳴らさない、時間に対する感覚は日本程きちんとしていない」などだそうです。私たちは案外イギリスについて知らないのだと思われました。

フィルの手作りした故郷の味コーニッシュパステイ(イギリス南部のコーンウォール地方のパイで、牛肉、ジャガイモなどが入るととても美味しい)の試食もあり、多くのことを教えてもらった1時間半でしたが、歴史の長いイギリスの魅力に関心が尽きません。第2弾を楽しみにしています。

## 日本語指導者養成講座「指導者としての心構えを中心に」

6月1日(土)日本語指導者養成講座がありました。講師は浅井華代先生。彦根在住ですが、かつては日本各地、また外国のいろんな都市にも住んでおられた先生です。現在、NHKラジオの地域レポーターやFM彦根でも活躍されています。



まずは、各自で名刺を作り、2分間で自己紹介をしました。短時間で相手のことを聞きだし、また自分を知ってもらう難しさを知りました。

次は、日本語ボランティアを始めた人たちが気をつけておくべきことを教わりました。文化審議会国語分科会(2018年)から出された文書について説明がありました。難しいことが書いてありますが、とにかく聞き手は学習者の話をジックリ遮らないで最後まで聞く「傾聴」が重要です。さらに、学習者の文化を尊重し、対等な立場で気持ちや想いを受け止める「態度・姿勢」が大切だと教えていただきました。

後半は、最近増えてきた企業研修生への対応についてです。一言で研修生といっても新設在留資格の特定技能2号や特定

技能1号(14分野)といろいろですが、一応日本語能力N4レベルで入ってきているようです。ただ、企業側は「N3、N2と日本語能力試験にも励んでほしいが、それだけでなく、地域の方々との会話がスムーズにできるようになってほしい」とそうです。

また、この頃ベトナム人研修生が増えていますが、漢越語には日本語と共通の言葉も多いとのこと、ボランティアにとっても参考になる情報でした。

最後に、「態度・姿勢・傾聴」の大切さを繰り返しておられました。また大変重要なこととして、地域の方々や公民館のスタッフの協力や支えがあってこそその学習支援だと言われたことは、本当にその通りだと改めて思いました。(K)



### 日本語に似た漢越語の例

- 古代 … コーダイ
- 注意 … チューイー
- 留意 … ルウイー
- 同意 … ドンイー
- 悪意 … アックイー

## 子どもと作る世界料理教室 ウガンダ編

6月23日(日)に世界料理教室ウガンダ編が開催されました。家族参加が多く、大人17人、子ども13人でした。講師はナムリンド・グレースさんで、日本に来て4年、現在は兵庫県に住んでいます。経済学を学ぶ大学生で、将来は国に帰って日本語の教師になりたいそうです。今回はウガンダの家庭料理を教えてくださいました。

**カウガ**: トウモロコシの粉を湯で練ったもので主食になります。これはグレースさんがまとめて作ってくれたのですが、参加者も順番に力いっぱい練って手伝いました。

**ピララ**: 混ぜご飯のようなもので、お米は細いパキスタン米を使いました。オリーブオイルで玉ねぎ、ピーマン、トマト、ニンニク、しょうが、シナモンなどを入れて炒め、炊き上げたお米に混ぜ込みます。

**ペナットソース**: 主食やスパイシーなご飯にかけるまるやかなカレーソースのようなもの。鶏肉をオリーブオイルで炒め、そこにみ



食後は、ウガンダについてのクイズで盛り上がりました。ウガンダは海より1000メートル以上高い位置にある国で、平均気温が21℃~25℃と日本よりも過ごしやすい気候だそうです。雨季と乾季があって緑が多く、緑の大地と呼ばれています。ビクトリア湖は面積が琵琶湖の100倍、九州の2倍あり、2メートルにもなる魚もいて、日本にも輸入されているそうです。大手ファストフード店で皆さんも一度は食べたことがあると思います。また、車の90%は日本車ということ、日本人もたくさん住んでいると聞き、遠いアフリカの国ながら、とても身近に感じられました。

## 英語で Tea Party

夏の特別企画「英語で Tea Party」が8月2日、9日、23日にコミセンきたので開催されました。自己紹介を兼ねた全員参加のウォームアップゲームをした後、4つのグループに分かれ、ネイティブスピーカーを中心に様々なトピックスについて話し合いました。

トピックスは、「Best Memory」「Travel」「Your Favourite Season」といった簡単なものですが、うまく答えられなくても、ネイティブの方が



フォローしてくれて会話はとぎれませんが、また他の参加者の話を聞いているだけでも勉強になりました。私のグループのジョンはイギリス出身で、イギリスの代表的なスポーツ「クリケット」について話してくれました。日本ではあまり知られていないクリケットは興味深く、ルールが野球に似ていることやフィールドが丸いことに驚きました。また、自炊をしているジョンが、あるスパイスを売っている店を見つけにくいと言うと、地元の買い物情報で盛り上がりました。

「英語で Tea Party」は参加者の会話レベルも年齢層もいろいろ違いましたが、全く関係なく和気あいあいと英語を楽しめました。実際に様々な国の出身者と出会って話してみても初めてその国の文化を深く知ることができます。またネイティブと話すことで日本のことを再認識するよい機会になりました。来年も参加したいです。(I・K)

## 真夏のドラゴンカヌー&BBQ

8月18日、あやめ浜でドラゴンカヌー&BBQが開催されました。今年は69名(外国籍21名)の参加があり、ドラゴンカヌー大会に男性2チーム、女性1チームが出場しました。カヌーの後はBBQを楽しみました。

カヌーではみんなで協力してゴールすることができました。来年はタイミングを合わせて漕げばタイムが上がると思います。BBQではソーセージを焼く手伝いをしました。みんなで作った料理はおいしかったです。(愛花音)

カヌーは負けてしまったけれどとても楽しかったです。バーベキューの後に子どもたちと遊びました。外国人なのに日本語が上手で、ニコニコしていて可愛かったです。とても暑かったけど、ものすごく楽しかったです。来年も行きたいです。(彩花)



V.O.F.A V.O.F.A V.O.F.A 私たちは国際交流事業を応援しています V.O.F.A V.O.F.A V.O.F.A

ゼラチン・コラーゲンペプチド各種製造販売しております。

**株式会社 ジェリア**

本社 滋賀県野洲市市三宅1013  
TEL 077-588-3000  
FAX 077-588-3004

三上工場 滋賀県野洲市三上2268

東京営業所 東京都千代田区岩本町2-4-5  
インスタイルスクエア R1204号

野洲化学工業株式会社 は、2019.4より社名変更しました

**奥野印刷株式会社**

●企画・デザイン ●総合印刷  
●会社案内 ●パンフレット ●販促チラシ・DM  
●ポスター ●各種機関紙 ●各種伝票

〒520-2362 滋賀県野洲市市三宅694-14  
TEL 077-588-2800 FAX 077-588-1955  
E-mail : p-okuno@fuga.ocn.ne.jp HP : http://okuno-print.net/